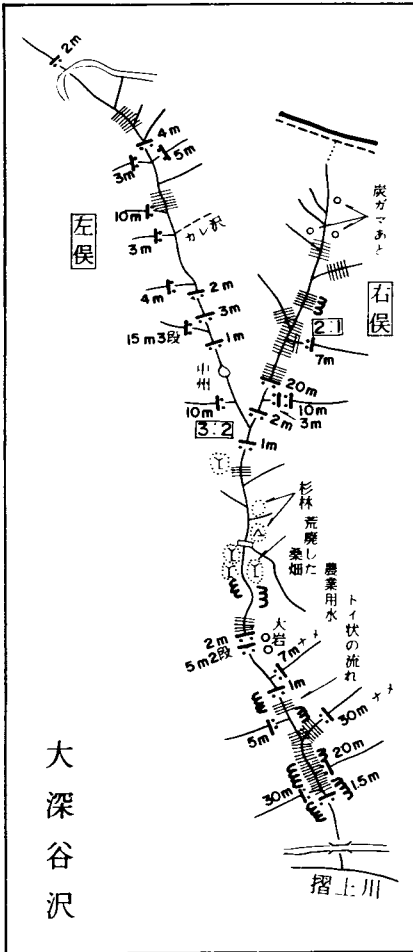


ほどで水は濁れた。

沢登りは今日が初めての菱沼の訓練と遊行調査をかねて、比較的悪場のなさそうな沢ということで、この沢を選んだ。予想通りほとんど河原歩きであったが、初心者の菱沼にとっては、かなり緊張の連続であったようだ。

〔タイム〕 大深谷沢橋(九:三〇) ↓



大深谷沢

二俣(二〇:四〇) ↓ 右俣終了(一

## 大深谷沢右俣

一九八二年五月二三日

天気晴。大深谷沢出合に車を置いて、遊行開始。歩き始めるとすぐ一五段程の小滝があって、ナメとなる。

出だしの雰囲気は上々である。沢の所々に、岩に刻んだ足場や鉄棒が残っていて、昔はこの沢ぞいの往来がかなり盛んであったようである。

左岸に支沢を分け、五段二段の滝を直登する。雰囲気良かったのはここまでで、この先は沢が急に明るく、開けてきた。左右を見ると、桑畑である。いや、桑畑の跡といった方が良いだろう。放棄されて何年もたち、荒れ放題となっている。先ほどの道はここに通ずる道だったのかと、合点する。

それにしても、摺上川ぞいに広が

る茂庭地区は、農耕地に恵まれなかつたせい、かなりあちこちに点々と畑地をもっていたようである。もっとも近年は、これらのうち支沢の奥に設けられていたものは、その多くが放棄されているようだが……。

左岸に水路が走っている。労振地区に農業用水を引いているものだろうか。手入れされた水路は、今も現に利用されていることを示している。

杉の美林と桑畑跡をぬけて更に進むと二俣となり、右俣に入る。やがて二〇畝の滝。この沢で目立った滝はこれ一つである。下三分の二ほどは左岸を、あとは右岸に移って直登する。見た目以上にホールドもあつて、比較的楽に登れた。

水量もめっきり減ってきた。もう源流も近い。兩岸にいくつもの炭焼き釜あとを見る。燃料革命は木炭を

追放し、炭焼きはごく一部で行われるだけとなってしまったが、盛時の名残はあちこちで見られる。

一一時〇五分、ほとんどヤブこぎ

## 白根沢

L  
一九八一年五月三一日

白根沢入口に車を置いて遊行開始。きれいな冷たい水だ。一〇分も歩くと、最初の小滝が出てきて、そのあとナメとなる。白根沢の特徴はこのナメにあり、途中部分的に途絶えることはあつても、ほぼ源流まで続いていた。

右に左に小さな屈曲を繰り返す沢を登ってゆくと、左岸によく手入れされた踏跡が出てきた。部分的にはコンクリートの石積みなどがあつて、

なして尾根に出る。尾根には踏跡があった。(記)

「タイム」 出合(八:一五) ↓ 二俣(九:三〇) ↓ 尾根(一一:〇五)

造林用として、あるいは農業用水の管理用として、頻繁に利用されているようだ。

八時四五分、取水ダムに着く。半分壊れかけた小規模なダムである。左岸の踏跡は、ここから幾分不明瞭となったが、まだ先へのびている。

よく育った杉林の中をぬけて、九時ちょうどに松峯沢出合に着く。滝の出でこないのがさみしい。「こんな岩質なんだから、傾斜さえついで